



手伝いの大切さ

皆さんの家庭では、子どもに手伝いをさせていますか。「どんな手伝いをさせればいいのかわからない」「手伝いを教えるのが大変」「自分でやったほうが早い」など、さまざまな理由から子どもが親の手伝いをする習慣がない家庭は少なくありません。「テーブルを拭く」「食器を片付ける」などの簡単な家事の手伝いでも、毎日手伝いをする事で子どもはさまざまなことを学びます。

特に家事などは、あらゆる場面で段取りを考える必要があります。例えば、「ご飯を配膳する」にしても、テーブルの上を片付けた後に、テーブルを拭いて配膳するなど作業の順番を考えながら、行動することで自然と段取りを考える力がつきます。また、毎日行う

ことで、食器を運ぶ際にお盆を使つてまとめて運ぶことや台所に皿や茶碗を事前に用意などの効率を考え工夫するようになります。このように自分で考え、工夫することとは子どもの生きる力を育みます。そのほかにも、手伝いを通して家族で一緒に過ごす時間や会話が増え、うまく手伝いができたときに褒めてあげること、子どもは自分に自信を持つようになります。

家庭で手伝いをする事は、子どもにとって生きる力を育てる良い教育の場です。はじめは、うまくできないことも多く、手伝いを負担に感じることもあると思います。子どもがうまくできないときは、すぐに手助けをするのではなく自分でやり遂げるまで待つようにしましょう。子どもが自分で考え、やり抜くことが大切です。もし、家庭で手伝いをさせる習慣がないのであれば、この機会に家族でルールや約束を決めて、子どもに手伝いをさせてみませんか。手伝いを教える際の会話を楽しみながら、さまざまな手伝いに挑戦させてみましょう。

▽問い合わせ 社会教育係

(☎2223局3546)



特別支援教育便り

▽問い合わせ 学校教育係
(☎2223局3547)

自己表現力を伸ばすために

学校には、自分の考えを上手に表現できない子どもがいます。「どう思う?」と尋ねても「分からない」とか「忘れた」などと言つて、その場から立ち去つてしまします。本当に分からなかったり、忘れてしまつたりした訳ではないのに、どんな言葉を使つて、どんな順序で話すかを判断することができずに困ってしまうのです。

例えば、パニックになつて友だちに手を出してしまうことがあります。一番の原因は不安です。自分の気持ちを上手に言葉にできず、相手に理解してもらえないから泣いたり、人をたたいたりしていると考えられます。

そんな時は、「不安だったんだね」と言葉に出して、子どもの気持ちに共感した上で、どうすれば良かったのかを一緒に考えると良いでしょう。



う。人をたたくことが良いことだと考えている子どもはいません。たいていしてしまうの一番困っているの

は、本人かもしれません。

中には、普段はりゆうちように話すことができるのですが、自分の気持ちを伝えるのが極端に苦手な子どももいます。

そのような子どもに寄り添い、自己表現力を伸ばすために、身近な大人が支援できることがあります。

①雑談をすることで会話を増やす

なかなか答えられない時は選択肢を与えると良いでしょう。また、わざと有り得ない答えを選択肢の中に入れたりすると、子どもは面白がつて話につてきます。

②語彙を増やす

言葉を使ったゲームと一緒に楽しむことで、子どもの語彙力を自然に増やします。

子どもの困ったことに大人が寄り添うことで、自己表現力を伸ばすことができます。そして、人との関わりを楽しむことができたり、自分に自信がついたりして、「自分が好き」と思えるようになっていきます。

芦屋小学校特別支援教育コーディネーター

西牟田裕子

参考資料…「じょうずなつきあい方がわかる自閉症スペクトラムの本」宮本信也監修

芦屋東小学校

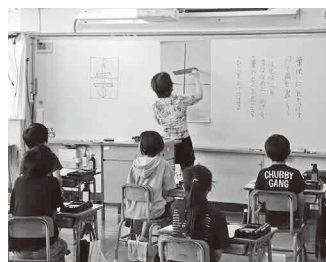
茶道・書道・魚道・箏道の取組

本校ではシビックプライドの醸成や日本の伝統文化継承のため4つの「道」の取組を行っています。

【茶道】 芦屋釜の里の人から指導を受けながら、茶道クラブの児童たちがお茶会を開きます。クラブの時間に作法などを教わり、東小まつりや卒業お茶会でそのお手前を披露します。



【書道】 習字の学習を始める3年生が、地域の人から年間8回の指導を受け、書道学習を進めています。筆の持ち方や止め、はね、はらいなど基本的なことをじっくりと教えていただいております。誰もが上手に書けるようになっていきます。



【魚道】 国土交通省遠賀川河川事務所の人に指導・助言をいただきながら、4年生が遠賀川の魚道について



調べ活動を行っています。本年度は「魚道」「生き物」「水質」「河口堰」の4グループに分かれ、12月に保護者と3年生に向けて、報告会を行いました。

【箏道】 和楽器の普及を進めるNPO法人「和楽啓明」の皆さんによる箏の演奏を、



全学年で聞きました。昔ながらの曲や親しみのある最近の曲などの演奏と箏とその演奏法も説明してもらいました。児童たちは、これら4つの「道」をとおして、芦屋や日本のすばらしさを感じ取っています。
(教頭 樋口陽一郎)

学校での出来事を先生たちがお届け!!

芦屋小学校

「頭」・「心」・「体」が育っています。(本年度の鍛錬から)

本校では、前回に紹介した「あきらめない子ども」「そうぞうする子ども」「こうりゅうする子ども」の育成に向け、「頭・心・体」の鍛錬を目的とした教育活動に取り組んでいます。

【頭の鍛錬】 確かな学力の定着に向け、見通しを持って自分なりの考えをつくる「一人学び」、友達と考えを交流し合う「協働学び」を通して学習の充実を図っています。本年度からは、ICTを活用して児童の興味・関心を高める指導方法の工夫も行っています。また、福岡県の事業「鍛えよう、ほめようプロジェクト」の3年目の取組を通して、読書活動や国語科を中心とした、学ぶ意欲が向上した児童が増えました。



ICTを活用した算数科の授業

【心の鍛錬】 日常の道徳の授業実践に加え、「芦屋小のあ（あいさつ）・そ（そうじ）・こ（ことばづかい）」の推進に努めています。2学期は、運動会、縦割り班での「朝そうじ」などを行い、1～4年生が5・6年

生をあこがれモデルとして、リーダーシップ、フォロワーシップの育成や主体性・社会性を高めていきました。



縦割り班での朝そうじ

【体の鍛錬】 体育の総合的な発表の場として、9月29日に運動会を行いました。10月11日には、全校で水巻町のみどりんばあーくまで「鍛錬遠足」に行き、12月3日の持久走大会では、冷たい風が吹く中を完走し、あきらめない心と体を鍛えました。
(教頭 久保哲哉)



力いっぱい取り組んだ運動会